



スポーツ秋田

題字：辻 兵吉 元県体協会長



アランマーレ秋田

女子バスケットボール日本最高峰リーグWリーグ参入決定!!



[写真提供：(株)プレステージ・インターナショナル アランマーレ 女子バスケットボールチーム]

contents

- ◎「時苗スポーツ指導者賞」の新設を決定…………… 2
- ◎アランマーレ秋田 Wリーグ参入決定!! …………… 3
- ◎事業計画・主要行事予定…………… 4
- ◎JSPO公認スポーツ指導者資格の更新等に関する特例措置… 6
- ◎中学生強化選手（指定証伝達・競技力向上研修Ⅰ）… 7
- ◎期待のジュニアアスリート VOL.7 …………… 9
- ◎コロナ禍で ～アスリート・指導者～ 高校編……………10
- ◎コロナ禍で ～アスリート～ テクアド編……………12
- ◎TOKYO 2020 オリ・パラ ホストタウン ……………14

- ◎総合型地域スポーツクラブ ～コロナ禍での活動状況～…15
- ◎令和2年度採用トップアスリート……………16
- ◎県内スポーツの主なできごと……………17
- ◎評議員紹介（一斉改選）……………18
- ◎バスケットボール競技普及等助成（寄付事業）
東京オリンピック・パラリンピック候補者支援募金…19
- ◎賛助会員・寄付者……………20
- ◎事務局だより……………22

オフィシャルパートナー

秋田ゼロックス株式会社

ISUZU 秋田いすゞ自動車株式会社

DOWA



『^{まきなえ}蒔苗スポーツ指導者賞』の新設を決定

本会は、令和2年9月1日（火）開催の第2回定例理事会において、「蒔苗スポーツ指導者賞」の新設を決定致しました。

本賞は、本会名誉会長である蒔苗昭三郎氏からの寄附金を基金として、県内において、オリンピック選手や日本のトップレベルの選手を育て、そのジュニア時代から指導・育成・支援するなど、本県スポーツの振興に大きな足跡を示した指導者や支援者を表彰する制度を創設したものです。

なお、「蒔苗スポーツ指導者賞」は、これまでの「人見スポーツ賞」「畠沢国体賞」「辻ジュニアスポーツ大賞」に次ぐ第4の賞となり、令和3年3月10日（水）に選考委員会、同3月25日（木）に表彰式を予定しております。



まき なえ しょうざぶろう
蒔 苗 昭三郎

生年月日 昭和7年7月9日
(88歳)

住 所 秋田市

昭和7年に現・大館市比内町に生まれ、大館鳳鳴高校、明治大学を経て、昭和31年に秋田いすゞ自動車株式会社に入社すると同時に同社にバスケットボール部を創設し、以来昭和60年まで監督・部長を歴任した。

平成2年から平成14年まで秋田県バスケットボール協会会長を務めるとともに、平成9年から平成21年までは財団法人秋田県体育協会会長、また、会長を退任してからは同名誉会長として現在に至っている。

この間、秋田いすゞバスケットボール部を全国有数のチームに育て、昭和59年には全日本総合バスケットボール選手権大会で優勝し、天皇杯を獲得するなど、秋田県バスケットボール競技の振興に尽力するとともに、秋田県スポーツ少年団の役員や秋田県スポーツ振興審議会委員、秋田ワールドゲームズ2001組織委員会副会長を努めるなど、幅広くスポーツの普及や発展に貢献した。

特に、平成19年に開催された第62回国民体育大会「秋田わか杉国体」では、県体育協会会長として先頭に立ち、天皇杯・皇后杯獲得に強いリーダーシップを発揮し、念願の総合優勝を秋田県にもたらすとともに、大会を成功に導いた功績は極めて大きい。

バスケットボール競技を中心としながらも、秋田県のスポーツ全般にわたって人一倍の情熱と卓越した指導力を発揮し、本県スポーツの礎を築いた人物である。

【秋田県体育協会略歴】

昭和60年～平成7年	常務理事
平成7年～平成9年	副会長
平成9年～平成21年	会長
平成21年～現在	名誉会長



アランマーレ秋田 女子バスケットボール日本最高峰リーグ Wリーグ(バスケットボール女子日本リーグ)参入決定!!

㈱プレステージ・インターナショナル
アランマーレ 女子バスケットボールチーム
HC 小嶋 裕二三



世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、日本国内におきましても東京オリンピックから市井のスポーツ活動に至るまで延期や中止を余儀なくされ、人々の生活様式さえも一変しております。

そのような状況下ではありますが、株式会社プレステージ・インターナショナルアランマーレの女子バスケットボールチームが、設立以来の悲願でありました国内女子バスケットボールの最高峰であるWリーグへ来年度より参入することが決定いたしました。

アランマーレは秋田市新屋を本拠地に2015年に誕生し、現在に至るまで日本社会人バスケットボール連盟に所属し活動してまいりました。株式会社プレステージ・インターナショナルは山形県、富山県にも拠点をもち、各拠点において同じく「アランマーレ」の名称でそれぞれのスポーツチームを設立しておりますが、このたびアランマーレ秋田のWリーグ参入が承認されたことにより、山形県酒田市の女子バレーボールチーム、富山県射水市の女子ハンドボールチームの3チームが揃って国内トップリーグの一員となります。とは言い、実力的にはまだ未熟でありますので、今まで以上の努力を重ね、戦力面はもちろんのこと、組織



や運営面でも一層の強化および整備を進めていくことが急務となっております。

アランマーレは「スポーツの力で地域を活性化すること」、「女性が能力を発揮できる機会を創出すること」を設立意義としております。その使命の一つは「秋田の皆様にあいさつされ、ともに成長できるチームとなること」であります。県民の皆様には、応援したい、観戦したい、成長を見守りたいと感じていただけるよう、最後まで試合を諦めることなく、ひたむきにボールを追いかけるチームを目指します。Wリーグは新規参入したチームが簡単に勝利をつかめるような甘い世界ではなく、数年間は相当厳しい現実と直面することが予想されます。しかしながら常に万全の準備を怠らず、ひとつひとつのプレーに最善を尽くし、着実に進歩を重ねその成長を見守りたくなるチームとなるよう努力いたします。

二つ目の使命は、スポーツを通じた青少年のスポーツ振興事業に広く取り組むこと、とりわけ女子バスケットボール選手の発掘育成から雇用環境の創造までを目指すことです。秋田県バスケットボール協会をはじめ各組織の皆様と

共に、初心者層への的確なアプローチから育成強化に至るまでのサポートを行い、秋田県から将来の日本代表、オリンピック選手の育成、輩出を目指します。また、競技引退後も女性が安心して、夢を持って働ける環境を創造したいと考えております。

ここ秋田は愛好者なら誰もが知る「バスケット王国」であります。私の年代では何と言っても「能代工業高校」が思い浮かびます。更にBリーグの強豪「秋田ノーザンハピネッツ」、国体や社会人大会で数多くの優勝を重ねる社会人男子の「JR東日本秋田」、同じく社会人女子の「秋田銀行」…と、社会人からミニバスケットに至る全ての年代で輝かしい実績を残しています。また世界と戦った男女日本代表の優秀な選手や指導者も数多く輩出しております。そのような先駆者から多くを学び、さらには後発の利を活かして、由緒ある「バスケット王国秋田」の歴史の1ページに名を記したいと、決意を新たにしております。

また、秋田県は「スポーツ立県あきた」を宣言し、年齢、性別、障害の有無等に関わらず全ての県民が「する・みる・ささえる」ことによってスポーツの価値を享受できることを目指しております。各競技団体を代表するトップチームが秋田県内に本拠を構え、既に宣言の実現に向け様々な活動を展開されています。アランマーレもその一員として積極的に活動し、宣言の実現に向け微力ながら貢献してまいります。

現在は新型コロナウイルス感染症が拡大する以前とは全く異なる環境下、方法での強化活動を余儀なくされておりますが、これはどこのチームも同じこと。そのような逆境ともいえる状況の中でも、より高い意識、強い決意、深い執着を持ってチームの強化に努め、県民の皆様には「応援したくなる姿」をご覧ください。最善を尽くす所存であります。アランマーレの今後の活動にぜひご注目ください。



* チーム公式HP

<https://www.aranmare.jp/basketball/>





令和2年度 秋田県体育協会事業計画

【令和2年4月時点】

【事業方針】

「スポーツ立県あきた」宣言の実現を目指し、国民体育大会（以下「国体」という。）や東京五輪をはじめとする国際大会等の大舞台で活躍できる選手を育成・強化するほか、スポーツへの参加人口・機会の促進等を図るため、加盟競技団体、加盟地域団体、加盟学校体育団体（以下「加盟団体」という。）並びに県等の関係機関と連携・協力し各種事業を推進します。

特に、国体等での勝利を目指して頑張っている選手・チームを支援するほか、多くの県民が生涯にわたり健康で生き生きと暮らせるよう、スポーツ・運動機会の充実を図るため関係機関と一体となって取り組んでいきます。

1 県民体育大会の開催

第71回県民体育大会を、東北総合体育大会や国体の予選会として開催します。

2 競技力向上対策事業

強化計画「チームAKITA 1,000点プラン」に掲げる対策を強力に推進します。

特に、高校強化拠点校を中心とした少年種目の強化と、社会人チーム及び女子種目の強化を図るほか、東北ブロックを勝ち抜くため各県戦力の調査・分析等を実施します。

(1) スポーツ医・科学の活用

スポーツ医・科学委員会のスポーツドクター、トレーナー等によるメディカル及びフィジカル面等の医・科学的サポートを実施するほか、アスリート、指導者、保護者を対象にアンチ・ドーピング教育・啓発のための講習会及び研修会を開催します。

(2) 東北ブロック大会、国民体育大会への派遣

(3) 秋田県高等学校強化拠点校制度等による選手育成・強化

①秋田県高等学校強化拠点校への支援

②中学生強化選手の指定・研修

- ・中学生強化選手競技力向上研修
- ・中高連携強化プロジェクト研修（選手・指導者）
- ・タレント発掘合同トライアル及び能力測定・体験会

(4) トップアスリートの支援

オリンピック・パラリンピックを目指す選手を支援するほか、本県出身者等が県内に就職して安心して競技を続けられるように支援するなど、社会人スポーツ選手等の競技力向上を図ります。

①オリンピック・パラリンピック候補選手の支援

②アスリートの就職支援

3 スポーツの普及等に関する事業

(1) 普及啓発・広報事業

機関誌「スポーツ秋田」の発行やホームページによる情報発信

(2) スポーツ普及推進事業

加盟団体が実施するスポーツ事業への助成

(3) スポーツ表彰・顕彰事業

本県の体育・スポーツの振興に寄与された功績が顕著な者に対し、その栄誉を顕彰

(4) 人見スポーツ傷害基金事業

スポーツ選手の傷害防止の啓発



4 生涯スポーツの振興

(1) 総合型地域スポーツクラブ育成・自立支援事業

県広域スポーツセンター及び県総合型クラブ連絡協議会と連携し、健康寿命日本一を目指した取り組みを実施します。

さらに、全市町村で開催される「チャレンジデー」に総合型クラブが主体的に参加するほか、障がい者も一緒に活動できるよう関係機関と連携していきます。

(2) スポーツ指導者養成事業

日本スポーツ協会公認コーチ1・コーチ2養成講習会及び研修会

(3) スポーツ少年団交流大会

①競技別交流大会 ②全県交流大会 ③リーダー養成事業 ④日独同時交流事業

⑤スポーツ少年団モデル育成事業

(4) スポーツ少年団指導者育成事業

①スタートコーチ（スポーツ少年団）養成講習会 ②認定員等再研修会 ③育成母集団研修会

④スポーツ少年団顕彰事業 ⑤スポーツ少年団広報普及事業

5 組織の運営・財政の確立

(1) 組織の運営

事務局職員を適材適所に配置するほか、処遇改善等により意欲喚起や組織の活性化を図ります。

また、各専門委員会に担当理事・学識経験者の委員のほか、必要に応じて更に専門的立場からの意見を取り入れるため委員を増員するなど強化・充実に努めます。

(2) 財政の確立

効率的な事業執行や経費の節減はもとより、事業推進や100周年記念事業に備え、賛助会員の増と収益事業により安定的な財源確保に努めるほか、企業等に対し本会事業の重要性について理解を得られるようより一層働きかけ、寄付を募るなど更なる財源の確保に努めます。

●令和2年度 県体育協会 今後の主要行事予定

行 事	実施予定日	場 所
第76回国民体育大会冬季大会 ・フィギュアスケート、アイスホッケー競技会 ・スピードスケート競技会 ・スキー競技会	R 3.1.27(水)～R 3.1.31(日) R 3.1.28(木)～R 3.1.31(日) R 3.2.18(木)～R 3.2.21(日)	愛知県（名古屋市） 岐阜県（恵那市） 秋田県（鹿角市）
第3回定例理事会	R 3.3.10(水)	ホテルメトロポリタン秋田
臨時評議員会	R 3.3.25(木)	秋田キャッスルホテル

●令和2年度 県スポーツ少年団 今後の主要行事予定

行 事	実施予定日	場 所
第43回秋田県スポーツ少年団大会 ・スキー（アルペン・ジャンプ） ・スキー（クロスカントリー）	R 3.2.11(木) R 3.2.20(土)～R 3.2.21(日)	稲川・花輪スキー場 たざわ湖スキー場
東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会 ・ミニバスケットボール	R 3.2.20(土)～R 3.2.21(日)	宮城県
全国競技別交流大会 ・サッカー	R 2.12月下旬	鹿児島県
常任委員会	R 3.2月上旬、下旬	県スポーツ科学センター
委員総会	R 3.3月上旬	県スポーツ科学センター



2020年度 秋田県スポーツ指導者研修会 開催中止について

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の有効期間は、資格登録後4年間であり、資格を更新するためには、資格有効期限の6か月前までに、日本スポーツ協会あるいは当該中央競技団体等の定める研修会を最低1回受けることが必要です。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、国内各所で行われる予定であった日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の更新研修が開催中止となっており、本会でも令和2年9月27日（日）及び令和3年2月27日（土）の秋田県スポーツ指導者研修会を中止としました。

この度の状況に伴う公認スポーツ指導者資格の更新登録・再登録に関して、特例措置が講じられておりますので、必ずご確認ください、忘れずにお手続きをお願いします。

ご不明な点につきましては、本会担当者（久米：電話018-864-8094）までお問い合わせください。

重 要

■「特例措置」の対象者

●資格有効期限

2019年9月30日、2020年3月31日、2020年9月30日

- ①2020年7月下旬～8月上旬頃、更新登録手続きの案内が、日本スポーツ協会から郵送されます。
(指導者マイページを保有している方にはメールでも送られてきます。)
- ②2020年9月30日までに手続き（登録料の入金等）を完了してください。
- ③2020年10月1日から資格が更新（再登録）され、後日、登録証（認定証）が、日本スポーツ協会から郵送されます。

●資格有効期限

2021年3月31日

- ①2021年1月下旬～2月上旬頃、更新登録手続きの案内が、日本スポーツ協会から郵送されます。
(指導者マイページを保有している方にはメールでも送られてきます。)
- ②2021年3月31日までに手続き（登録料の入金等）を完了してください。
- ③2021年4月1日から資格が更新（再登録）され、後日、登録証（認定証）が、日本スポーツ協会から郵送されます。

●資格有効期限

2021年9月30日

- ①2021年7月下旬～8月上旬頃、更新登録手続きの案内が、日本スポーツ協会から郵送されます。
(指導者マイページを保有している方にはメールでも送られてきます。)
- ②2021年9月30日までに手続き（登録料の入金等）を完了してください。
- ③2021年10月1日から資格が更新（再登録）され、後日、登録証（認定証）が、日本スポーツ協会から郵送されます。



第18期秋田県中学生強化選手の指定証伝達

平成23年度にスタートした秋田県中学生強化選手制度は、6月に第18期となる選手が指定されています。

秋田県、秋田県教育委員会及び秋田県体育協会の3者連名によるこの制度は、各競技団体が主催する強化練習や合宿、秋田県体育協会が主催する強化事業に参加できるほか、毎年様々なプログラムを受けることができます。

第18期秋田県中学生強化選手に指定されたのは、13競技14種目の55名でこれまでに延べ1,013名が指定を受けています。この制度は、高校進学後に全国制覇を成し遂げる選手も輩出しており、中学・高校年代の育成の一助となっています。

例年は、指定証交付式を挙行し、同時にドクター等による選手のメディカルチェックや保護者プログラムを開催していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から中止となりました。代わりに選手は各学校で指定証の伝達を受け、今後の目標を力強く宣言しました。今回は、秋田大学教育文化学部附属中学校での指定証伝達の様子を紹介します。



原校長先生から紹介される6名の秋田県中学生強化選手



【上段左から】田中奏愛選手(スピードスケート)、堀内すみれ選手、長谷部こころ選手(バスケットボール)
【下段左から】佐藤航貴選手、石原悠聖選手(剣道)、太田駿樹選手(卓球)

Q1. 秋田県中学生強化選手に指定されての意気込みは？

田中：秋田県の代表として、沢山練習し、良い結果を残したいです。

堀内：自分の持っている能力を精一杯引き出せるように、何事にも一生懸命挑戦したいです。

長谷部：様々な競技の選手が指定されているので、他競技の選手の姿から色々なことを学びたいです。

佐藤：今まで剣道が勉強かに傾いてしまいがちでしたが、今後はバランスをとりながら文武両道を目指します。

石原：しっかりと稽古に励み、インターハイで好成績を修められるように日々頑張ります。

太田：これからは、日々の練習をより集中して取り組み、東北・全国で活躍したいです。

Q2. スポーツで目指す目標や夢は？

田中：現在B級バッジですが、今シーズンでA級バッジをとることで！

堀内：今はチームで勝利のために頑張り、将来は指導者となってバスケットボールの魅力を伝えたいです！

長谷部：今のチームで全県優勝し、全国大会へ出場することです！

佐藤：個人・団体ともに全国大会に出場し1つでも多く勝ちたいです。また姉（12期強化選手）を超えたいです！

石原：中学年代では全国大会出場、高校年代ではインターハイ出場です！

太田：全国大会でベスト8に入ることで！

櫻庭副校長先生は、式終了後、6名の秋田県中学生強化選手に向けて「当たり前のことをしっかりとコツコツやることを大事に、スポーツだけでなく苦手なことにもチャレンジしてほしい。学校の代表だけでなく、本県の代表として県民に元気を与える力を身に付けて、他競技の選手と共に切磋琢磨してほしい。『一流になるにはこうあれ』という姿を見せてくれることを期待している。」と激励の言葉を贈りました。



令和2年度秋田県中学生強化選手育成事業 競技力向上研修 I (オンライン研修)

例年8月に、秋田県中学生強化選手の資質向上を目的として、強化選手全員を対象に、秋田市太平洋山自然学習センターまんたらめに宿泊を含む2日間にわたって実施している競技力向上研修 I。本研修は他競技の中学生トップ選手と交流できる貴重な経験の場でもあり、選手にとって今後の競技人生を豊かにしてくれるプログラムを多数実施しています。

今年度も選手の成長を期待して、計画を立案し開催を模索・検討してきましたが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う感染予防から、選手の健康・安全を第一に考慮し、実地での開催を断念し、オンラインを用いた講義動画の配信という形態に形式を変更して実施することとなりました。



昨年の様子(閉講式に参加する選手・保護者)

接触を避けたオンライン研修



スマートフォンからみた専用ウェブページ

オンライン研修は、当会のホームページ上に設置された専用ページに、選手がIDとパスワードを用いて、各家庭からアクセスし、月毎にアップされる講義動画を視聴して、事前に送付された確認シートに感想や質問事項を記入し提出するという形になっています。インターネット環境が整っていない家庭に対しては講義動画をDVDにして貸与し、全選手が視聴できるようにしています。実施期間は8月末から11月末までで全4回の動画配信となっており、24時間いつでも視聴できることに加え、パソコンの他、タブレット端末やスマートフォンからも視聴ができます。確認シートについても、オンラインを活かして、直筆したものをカメラで撮影し、メールに添付して送ることも可としています。

ウェブの特徴と良さを生かしながら、講義を届ける

本研修では視聴する選手が特に能動的に動画視聴に“参加”し、講習から学びを獲得することができるよう、その場であたかも講義を受けているかのように、資料と講師の顔を同時に見て、説明のニュアンスが感じとれる動画が配信されています。また選手から送られてきた質問に対しては、同ホームページ上にて、一問一答形式で講師が回答するページをアップし、自分や他の選手が感じた疑問とその回答を共有することができるようになってい



スポーツ栄養学の講義動画キャプチャ



選手からの質問とその回答を載せたページ

配信内容	
8月テーマ：メンタル・トレーニング	講師：小倉 晃輔 氏 元・秋田県スポーツ科学センター メンタルトレーニングアドバイザー
9月テーマ：スポーツ栄養学	講師：宇佐美 佳奈子 氏 管理栄養士 日本スポーツ協会 公認スポーツ栄養士
	講師：長嶋 智子 氏 城東スポーツ整形クリニック 管理栄養士 日本スポーツ協会 公認スポーツ栄養士
10月テーマ：フィジカル・トレーニング	講師：高野 洋平 氏 秋田県スポーツ科学センター フィジカルトレーニングアドバイザー
11月テーマ：アスリート講話 (予定)	講師：菊池 彩花 氏 富士急行株式会社 (山梨県) 元・スピードスケート選手 2018平昌冬季五輪スピードスケート 女子チームパシュート金メダリスト

受講した選手たちは

実際に受講した選手の確認シートには、「緊張することがよくあるので深呼吸のやり方や自分の最大の能力を発揮するやり方などは実際にやってみたい」(メンタルトレーニング) や、「自分が食べているものがどのような形で筋肉になったり、疲労回復、成長につながったりするのかわかったのでとても参考になりました。」(スポーツ栄養学) など、競技に活かそうとする積極的な姿勢が感じられました。また、配信開始後に大会に参加した選手を視察したところ、講義で扱われた内容を選手が実践している様子が見て取れ、研修の効果を感じることができました。未だ新型コロナウイルス感染症の影響は収まりをみせませんが、選手たちにはこの研修を一助として、秋田県強化選手として檜舞台で活躍することを期待しています。そしてこれに留まらず、研修内容を精査・改善しながら、今後も選手の成長やニーズ、課題を的確に捉え、更なる資質向上を目指して研修の充実を図って参ります。



家庭での受講の様子(保護者提供)



期待のジュニアアスリート VOL.7



第18期秋田県中学生強化選手の中から、東北・全国大会を経験した3名の選手に、競技との出会いや醍醐味などを聞きました。

水泳競技

(競泳)

たかはし りん
高橋 凜選手

城東中学校

2年生



Q1. 競技との出会いやきっかけ、競技の魅力は？

小学校4年生の頃、現在のクラブに入って、育成コースで泳いでいる先輩たちを見て、格好よく見えたからです。競泳は、努力した結果が「タイム」という数字で目に見えるところが魅力です。

Q2. これまでに出場した東北大会・全国大会の舞台で感じたことは？

周りの選手が自分よりも体が大きく、後半の粘りが強いということです。全国ではまだまだ通用しないと痛感しました。

Q3. 今後の目標・夢は？そのために取り組んでいることは？

ナショナルタイムを切って、全国の速い選手との合宿に参加したいです。そのために、日々筋力トレーニングやスピード練習に取り組んでいます。

Q4. コロナ禍で感じたことと、今の心境を教えてください。

各大会がなくなり、自分のタイムの状況や泳ぎが分からなくなったことや、全国の選手と競い合う機会が失われて、とても悔しかったです。

Q5. 将来の夢は？

50m自由形、100m自由形で全国優勝することです！リレーでも決勝に残り、上位入賞を目指します。

Q1. 競技との出会いやきっかけ、競技の魅力は？

家族は誰もラグビー経験がありませんでしたが、母に勧められて小学4年生から清水スポーツ少年団に入りました。ルールは複雑ですが、わからなくても見ているだけで楽しめ、熱くなれるところが魅力です。また、多くのポジションがあるので、自分の個性や特性を生かしてプレーすることができ、一人ひとりが主役になれることも魅力的です。

Q2. これまでに出場した東北大会・全国大会の舞台で感じたことは？

去年出場した東日本大会では、「勝ちたい」という熱くて強い気持ちがプレーに表れ、強豪チーム相手に勝つことができました。この経験から、自分たちよりレベルが上の相手でも、気持ちの持ち方で結果が変わるのだということ学びました。

Q3. 今後の目標・夢は？そのために取り組んでいることは？

高校進学後、全国優勝することです。今年度は上位大会がすべて中止となってしまう、全国の強豪チームと対戦する機会がありませんでした。夢の舞台である花園で、今年度悔しい思いをした分も暴れたいと思っています。そのために食事の量を増やし、トレーニングをしっかりとしています。全国には自分よりも体の大きい選手がたくさんいるので、そういった相手にも当たり負けしないような体作りをしています。

Q4. コロナ禍で感じたことと、今の心境を教えてください。

とにかく精神的に苦しかったです。今年度は交流大会を一つの目標としていましたが、試合の2日前にクラスターが発生し、親から「中止になった」と知らされて放心状態になったことは忘れられません。しかし、様々なことが制限されていたからこそ、仲間とプレーする楽しさに改めて気づき、ラグビーに対する自分の気持ちと向き合えました。

Q5. 将来の夢は？

まずは高校で全国大会に出場し、活躍することです！

バスケットボール

競技

たなか みゆ
田中 美有選手

角館中学校

2年生



Q1. 競技との出会いやきっかけ、競技の魅力は？

4歳上の姉が小学校からバスケットをしていて、その姿を見て「自分も姉のようにうまくなりたい」と思い、小学校1年生の冬にバスケットを始めました。個人のレベルが上がった時の達成感はもちろん、チーム内での切磋琢磨、勝った時の嬉しさ、負けた時の悔しさなど、全て魅力だと思います。

Q2. これまでに出場した東北大会・全国大会の舞台で感じたことは？

東北大会では、日々練習したことを十分に発揮できた一方で、全国大会では不調を引きずってしまい、切り替えることができませんでした。大舞台を経験し、調子の良い悪いに関係なく、気持ちの持ち方次第で自分のベストを維持できるかが決まることを、身をもって知りました。

Q3. 今後の目標・夢は？そのために取り組んでいることは？

全県優勝、そして東北大会、全中出場が最終的な目標です。毎日の練習を大切にすることを前提に、全員が声を出して盛り上げることや、雰囲気が悪い時は一度全員で集まって仕切りなおすなど、「全員が」を常に意識しています。

Q4. コロナ禍で感じたことと、今の心境を教えてください。

今まで当たり前だと思っていた試合や練習ができなくなったことや、制限が増えたことなど、去年と全く違う環境になってしまい残念です。しかし、限られていることが多い分、一回一回を大切にしないといけないという意識が高まりました。

Q5. 将来の夢は？

理学療法士です。普段から怪我が多く、リハビリでお世話になっています。自分も怪我をしたスポーツプレイヤーたちの回復や活躍を支える立場の人になりたいと思っています。



Move forward with passion! ~前に進もう!~

ここでは、このコロナ禍で部活動を終わざるを得なかった剣道・フェンシング・新体操、そしてこれからメインシーズンに向かうバスケケットボール・スキーマの高校3年生5名と指導者の2名に、それぞれのこれまでとこれからについてインタビューしました。



【 選 手 】

質問①：今回のコロナがあなたの生活にもたらした特に大きな影響は何ですか？

- 小野：自分を見つめ直し、様々なことを考えましたが、剣道が好きで、これからも続けていきたいという思いが強くなりました。チームでの練習ができない分、家での自主トレーニングを中心に、また、ネット動画も参考にしながら自己を高めました。自ら考え、取り組む自主性を今まで以上に高めることができたことが大きかったと思います。
- 佐藤：私はサーブルという種目を極めるために学校での練習に加えて、両親の協力を得て月に何度か東京でレッスンを行って来ました。それが十分にできなくなってしまったことです。しかし、このことによって自分の課題をじっくりと見つめ直すことができました。そしてあらためて家族や周囲の方々へ感謝の思いがこみ上げてきました。
- 船川：コロナ拡大により様々な大会が中止となっていく中で、果たせなかった目標もたくさんあり、自分の中で新体操競技に対する思いが大きくなりました。新体操競技は高校3年間で完結するつもりで高校に入学したのですが、大学進学後も競技を継続し、更に高い目標に向かって挑戦していきたいと思うようになりました。このような状況下で自身の気持ちと向き合えたこと、進路選択が大きく変わったことが私の中での最大の出来事だと考えています。
- 工藤：活動の制限が大きな影響で、部活動だけでなく外出もままならないことが多かったです。しかし、時間を無駄にせず、体力や筋力を落とさない方法を考え行動することができました。また、選手一人一人がバスケットボールに対する考えを新たにすることができ、知識をより深めることができました。
- 水谷：8月下旬から10月下旬の予定でツェルマットスキー場（スイス）で本格的なシーズンを迎える準備をしています。この海外合宿を実施するにあたり、コロナ対策ガイドラインの作成やいろいろな手続きに時間が取られています。さらに、日常生活において注意しながら行動するよう強く指導されています。また、帰国後のPCR検査、さらに2週間の隔離など、多くの時間と手間がかかり、スムーズな入国や帰国が困難になっていることが大変だと感じています。

質問②：コロナが発生する前と後で、あなたの目標には何か変化がありましたか？

- 小野：全国選抜優勝を目標にチーム全員で高め合っていました。また、キャプテンとしてチーム力の向上に取り組んできました。コロナ禍の影響で各種大会が中止になりましたが、大学で全国優勝するという目標に切り替えることができました。現在、目標達成のために高校生活を大切に、剣道を頑張るだけでなく学業にも力を入れ日々精進しています。
- 佐藤：聖霊高校のメンバーとして全国高校選抜、インターハイ、国体の優勝を目標にしましたが叶いませんでした。しかし、私は高校卒業後も競技を続けていきます。だから何事にも自分ができる最大限の努力を重ねていきます。そして新しい目標にむかって全力を尽くしていきたいです。
- 船川：今年は「限界を突破して全国の舞台で入賞する」ということを目標にしていました。コロナの流行により全国の舞台で入賞するという目標はなくなってしまいましたが、「限界突破」という目標は変わらず「挑戦する」気持ちを持って練習に取り組んできました。今後も「挑戦する」という気持ちを大切にしていきたいと思います。
- 工藤：目標は変わらず「日本一」になることです。「能代工業高校」として最後になる全国大会（ウィンターカップ）に向け、全国のチームが同じ状況の中で、自分たちが今何をすべきかを考え、プレーに磨きをかけて優勝を目指します。そのために日々の練習を大切に、技術・自主性・精神力を高めていきます。
- 水谷：このような状況下であっても、またこれからどんな状況になったとしても、目標というものは変わりません。目標達成に向けて今できる目の前のことに集中し、最大限の準備をしていくことを意識しながら、地道に積み重ねて日常生活を送るよう心掛けています。

質問③：まだ終息はしていませんが、今回のコロナで経験した『当たり前のことが突然当たり前ではなくなる』ということ振り返って、今後の自身の人生・生活にどのように活かしたいと考えますか？

- 小野：日々の練習を大切に、大会に出場するといったことが当たり前だと思っていました。コロナ禍の経験から、いろいろな方々の支えがあったから剣道を頑張ることができたと実感しました。これからの私の人生・生活で、周囲に対して感謝の気持ちを持ち、支えてくれた方々へ恩返しができるよう、自己を更に高めていきたいと思っています。
- 佐藤：大会で納得のいく動きができず、結果が出なくても「次がある」「また来年がある」と思っていました。自分のなかでは一つ一つ



の試合に真剣に臨んできたつもりです。これからは試合ばかりではなく、毎日の練習や毎日の生活にも気を配り、家族をはじめたくさんの方々からの支え、励ましがあってフェンシングができること、健康に日常生活が過ごせることにあらためて感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。

船川：今回のコロナにより、当たり前の日常がどれだけ幸せなものなのかを実感しました。これからの生活では、自分の心としっかり向き合い日々後悔のないよう全力で何事にも挑戦していきたいと今まで以上に考えるようになりました。また、感謝の気持ちを忘れず、人との繋がりを大切に、今自分にできることは何かを考えていきたいと思います。

質問④：このような状況の中でも、バスケットボールに一生懸命に取り組み続ける意義は何だと考えますか？

工藤：日本一を達成することが一生懸命に取り組む意義だと思います。その理由は、たくさんの人達への感謝を結果で返すためです。また、日頃指導してくださっている小野コーチ、顧問の先生方をはじめ、バスケットボールをさせてくれている両親や家族、支えてくれている地域の方々へ日本一という結果で恩返しをしたいです。

質問⑤：同じ年代の沢山の仲間がコロナのためにスポーツを満足に出来ずにシーズンを終えました。あなた自身は、今シーズンをどんなものにしたいですか？また、どんなことに取り組んでいますか？

水谷：まだまだ終息が見えない状況の中で、いろいろな事が満足にできない日々が続いているところです。でも考え方を変えたことで、逆に気持ちの面で原点に戻ることができました。今は、シーズン前にスイスで合宿できていることに感謝し、また改めて多くのスタッフの方々の協力のお陰で海外合宿が実施できていることに感謝しています。同時に、スキーができる喜びを日々感じながら目標達成に向けて上達に努めたいと思っています。今シーズンは、例年よりレース数が限られますが、1レース、1レースを大切に結果を積み上げていきたいと思っています。現在は感染対策に十分気をつけながら、上達しそして成長できることを、日々楽しみながら雪上トレーニングに取り組んでいるところです。

【 指 導 者 】

質問①：コロナによる影響が大きい中、特に苦慮したことは何ですか？

宮原：最大の目標である全国高校総体が選手の健康や安全面等の配慮により中止になったことについては、仕方がないことだと理解しましたが、選手の気持ちを考えると非常に残念でした。日頃の練習の成果を発揮する場が失われ、更に国体等の全国規模の大会が無くなるかもしれないという状況下での練習では、選手のモチベーション維持が非常に困難でした。

大森：学校が休校した際、選手への練習内容の指示や個々の練習強度を調整させることが難しかったです。また、コロナ感染者が発生した地域への合宿が許可されず、これまで合宿地としていた場所から別の場所に変更を余儀なくされるなど、宿舎との合宿期間の調整や値段交渉、新しい合宿地でのトレーニング場所の確保などに苦慮しました。

質問②：今般のコロナ禍でも、選手・生徒たちが部活動に一生懸命取り組む意義は何だと考えますか？

宮原：部活動としてスポーツに親しむ上で、試合で勝つことだけに重きを置くことは間違いです。社会人として身につけるべきスキルを学ぶための勉強の場だと思っています。その中で「選手が何を培ってきたか」という事がとても重要です。練習の成果を発揮する場が失われたとしても、部活動の意義は過程（プロセス）の中にあり、礼儀、協調性、創造力、感謝の気持ち等を学ぶことに部活動本来の意義があると思います。

大森：スキーは夏のインターハイや野球の甲子園のように中止が決まっていないので、これまでと同様、目標を持って取り組むこと、そしてそれを3年間継続することです。目標を持つことやそれをやり通すことは社会に出て通ずるものと考えます。また、仲間の存在も大きいと思います。同じ境遇の中で頑張り合えることも部活動の意義と考えます。

質問③：3・2・1年生それぞれに対して、こんな状況だからこそ“部活動の顧問として伝えられること”は何ですか？

宮原：どんな困難な状況においても、決して諦めずに前向きに捉えて行動することが大切だと伝えたいです。いずれは高校・大学を卒業し、独り立ちしなければいけません。一社会人として生きていく上で、今より多くの困難が待ち受けています。大人と子どもの間にいる今だからこそ、諦めるという選択肢を無くし、柔軟な発想で本気になって考えれば必ず選択肢は見つかるはずですよ。これからの時代は様々な社会変化や社会問題に立ち向かっていかなくてはなりません。将来、困難な状況に直面しても決して諦めずに、創造力を働かせ、自ら考え行動に移せる人間に育ててほしいと思っています。

大森：3年生には、3年間目標を持って一生懸命努力したことがこれから始まる自分の人生の糧になることを伝えたいです。2年生には卒業までに何が起るか分からないので、一つ一つのことを一生懸命大切にしていってほしいです。1年生には2年後の自分を想像してもらい、3年間でどうなりたいのか、そうなるために自らどんな行動をとってほしいのかを伝えたいです。

質問④：今回のコロナでのあらゆる事象を踏まえ、今後はどんな部活動の在り方を目指すべきだと考えますか？

宮原：改めて部活動における教育的意義が重要視される一方で、勝利至上主義の考え方そのものが否定されているようにも感じます。結果を生むための体罰や傲慢な指導方法は決して許されるものではありませんが、より良い結果や高い目標を達成するために厳しい練習に耐えて努力を重ねた日々は、子どもたちの心の成長や、今後の豊かな人生を送る上でとても重要な成長の過程だといえます。教育的意義を重要視する考え方と勝利至上主義は相反するように思えますが、勝利を目指す過程の中で、教育的意義（礼儀、協調性、創造力、感謝の気持ち）が培われ、特に高校生においてはこれらの心の成長が競技力の向上に深く関係していると思います。部活動は、コロナの状況下においても、この双方の考えについて偏ることなく行っていくべきだと考えます。

質問⑤：来年2月には地元鹿角市でスキー国体が開催予定です。選手達にはどのような気持ちでシーズンに向かわせていますか？

大森：地元鹿角市花輪スキー場は花輪高校にとってどのチームよりも練習してきた場所なので、国体に参加して活躍することが一番の地元への恩返しになるものと考えます。したがって選手たちにはこのシーズン、必ず秋田県の代表となって地元の国体に出場し、自分の最高のパフォーマンスを発揮するのだという気持ちでシーズンに向かわせています。また、こうした大会を運営して下さるの方々に対しても感謝の気持ちを持ってシーズンを迎えられるように指導しています。



コロナ禍の中で… ～選手たちの葛藤～

新型コロナウイルス感染症で世界中が大混乱のなか、日本スポーツ界でも多くの大会が中止をやむなくしてきた。多くの選手、指導者、ファンが肩を落とした日々であった。スポーツには人を元気にする力がある。それを信じ、本会テクニカルアドバイザーとして活動する4名にコロナ禍での活動の現状を聞いた。

陸上競技（投擲）
安部 建吾



①今年目標としていたこと

今年度でテクニカルアドバイザーとしての活動は3年目になり、当時中学1年生・高校1年生だった選手は中学3年生・高校3年生になりました。高校生を主に指導し、インターハイ、国民体育大会での入賞を目標に2年間の長期的なトレーニング計画を設定し、選手達はトレーニングに励み、実力も十分に備わりました。3年目の指導となると選手への思いも強くなり、指導に力が入りました。しかし、目標としていた大会は開催されることなく選手は引退を迎えてしまい、これまで必死に練習に励んできた選手に、どのように声をかけたら良いのかも分からず、私自身が選手として悔しい思いをすることよりも悔しさを感じました。それでも、選手達は人間的に大きく成長し、悔しい思いをしてもなお、次の目標へと切り替え、努力しています。選手の成長を楽しみに見てきましたが、秋田県の選手達は本当に素晴らしい人間性を兼ね備えています。



②新型コロナウイルス感染症の影響

感染症の影響で様々な大会が中止となりましたが、この状況の中で感染症対策に十分に配慮して大会を開催する努力がなされています。私もスタッフとして大会の審判を行います。スタッフそれぞれが選手を守りつつ、パフォーマンスを発揮してもらうために尽力している姿を見ました。私たちは改めて「選手ファースト」について考えさせられたし、「選手ファースト」のために自分が今できることをしなければならぬと思います。また私自身も大会が中止となり、試合に出場していませんが、来る試合に向けて努力を重ねています。選手として思うことは、感染症への対策を十分に行い、適応し、今、すべきことをするという事です。学生選手は限られた時間の中で、さらに制限をかけられた練習をしていることと思いますが、その中で自分がすべきことを見つけ取り組んでほしいと思います。

③今後の目標や活動の仕方

新型コロナウイルス感染症がいつ終息するのか、または共存していかなければならないのか分かりません。私ができることは、選手を守ること、身を守る術を徹底して教えながら強化していくことです。微力ではありますが、秋田県から生まれる優秀な人材を育てることの一助になれるよう、指導者として、選手として精進していきます。まずは選手の強化に力を入れ、全国大会で活躍する選手を育成し、私自身の活躍する姿もしっかり見せられるように競技に邁進していきたいです。また、常に変化を求めて練習スタイルや指導スタイルを模索し続け、時代に適応しながら生活を送っていきます。



レスリング競技
成田 竜也



①今年目標としていたこと

昨年の国民体育大会では5位という不甲斐ない結果に終わってしまい、悔しい思いをしました。そのため課題であったスタミナ面や筋力面の強化、動画での研究も積極的に行い、今年こそは3位以上に入賞して秋田県に少しでも貢献できるようにと努力してきました。指導者としても中学生、高校生の課題である技術面を細かい部分まで丁寧に指導を行い、試合で確実にポイントを取得することが出来るように実践練習で積極的に技を仕掛けていくよう徹底して指導をし、個人、団体共に全国優勝を目標に日々練習を行いました。

ていくよう徹底して指導をし、個人、団体共に全国優勝を目標に日々練習を行いました。

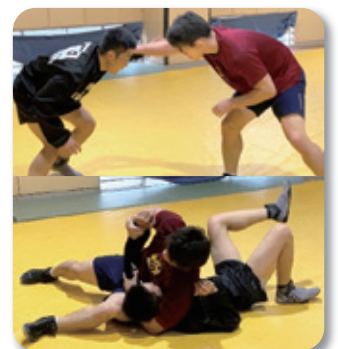
②新型コロナウイルス感染症の影響

コンタクトスポーツということで接触する練習はしばらく禁止となりました。生徒だけではなく自分自身も練習を行う環境がなくなってしまい近場でのランニングや筋力トレーニングをメインに体を動かすことしかできなく、予定されていた合宿、大会も軒並み中止となり中学生は今年試合を行うことが出来ず、高校生は10月に行われる選抜大会の1つだけでした。国民体育大会も延期が決まり昨年のリベンジを行うことが出来ず、とても悔しいですが少しでもポジティブに捉えて気持ちが切れないように中学生、高校生と共に頑張っていきたいです。

③今後の目標や活動の仕方

まずは10月に行われる高校生の大会で個人、団体共に優勝することが大きな目標です。そのためにも日々の練習での細かな指導や試合におけるアドバイスなど指導者としての役割を果たせるようになっていきます。中学生に関しては大会が行われないので、その分練習や県内の合宿などで体力の向上をめざし3年生は高校に入学してからつまづかないように、1、2年生には来年の全国大会に向けての準備を今のうちから行い、優勝を狙える体づくりを徹底的に行っていきたいです。

また、正式に決定はしていませんが12月の全日本選手権が行われる場合は出場する予定ですので、そこに焦点を絞って今まで行ってきたスタミナ面、筋力面の強化や動画研究なども継続的に少しづつでも良い結果を出せるよう努力していきたいです。





Sports have the power to invigorate people **スポーツには人を元気にする力がある**

ハンドボール競技
加納 明帆



①今年目標としていたこと

指導者としては少年女子の国体出場、選手としては成年女子の国体5位入賞を念頭におき、昨年以上の結果を残すことを目標にしていました。成年女子では、即戦力となる新しいメンバーの追加や、怪我をしていた選手の復帰で、チーム力向上が期待できたこともあり、早い時期からの練習開始を計画し、少年女子との合同練習や、実戦練習の機会を多く設けていこうと考えていました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、大会中止が決まってからは、指導者としても、選手としても、個々の体力面の強化と技術力向上を課題として、いつ大会が開催されても対応できるように「現在出来ることを徹底する」ということに頭を切り替えました。

②新型コロナウイルス感染症の影響

毎年参加していた合宿に参加出来なくなってしまう、思うように練習時間が確保出来なかったりという部分で一番影響を受けたと思います。実戦練習が殆ど出来なくなってしまうことは、指導者としても、選手としても、非常に痛手となりました。それに伴い、大会等も中止になったことから、選手の目の前の目標をどこに置くのか、モチベーションを高く維持するために何が出来るのかという精神的な部分においても、少なからず影響を受けたと思います。

また、接触競技ということもあり、取り入れられるメニューも少なく、体力強化や個人の技術練習がメインとなる期間が続いたので、オフェンスとディフェンスが対峙しての練習や実戦練習が必要なチーム競技にとっては、大きな影響があったと思います。しかし、今回の件で、普段あまり時間を割いて指導することが出来なかった選手一人ひとりの技術面や、チームの弱点克服にける時間を多く確保できたことは、プラスの経験だったと思います。

③今後の目標や活動の仕方

指導者としては、来月の新人戦で自チームを優勝させることを直近の目標として、指導にあたっていきたく思います。少しずつ対峙練習も取り入れられてきているので、今後は更にグループ練習や実戦練習を基盤として、チーム力の底上げをしていきたいと思っています。

選手としては、年内の社会人の大会はなくなってしまったので、来年の国体に向けて、早い段階でのメンバー招集と練習開始に努めたいと思います。また、全体として、カテゴリーに関わらず、ハンドボールを通して交流する場を設けていきたいと考えているので、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、合同練習や実戦練習の機会を増やしていきたいと思っています。

まずは、こうして日々競技が行えることに感謝をして、練習に取り組んでいきたいと思っています。



ウェイト
リフティング競技
腰山 浩汰



①今年目標としていたこと

昨年度の茨城国体では、8位と自己ベストにほど遠く、体調管理も含め、多くの課題を残す結果となってしまいました。今年度の鹿児島国体では、それを克服し上位に食い込むため、トレーニングを実施していました。新型コロナウイルス感染症でトレーニング自粛期間もありましたが、自宅にて、メンタル・基礎トレーニング等、原点に立ち返り、取り組みました。高校生と共にトレーニングに励み、時にはアドバイス、時には高校生から気づかされることもあり、充実したトレーニングが出来ています。国体等中止で大変残念ではありますが、次年度以降につなげていきたいと考えています。

②新型コロナウイルス感染症の影響

バーベルを使ったトレーニングが長期間出来ないということが1番不安でした。また金足農業高校の練習は、個人種目ですが、全体が一体となり、共に競い合い励まし合い、協力し合いながらの練習なので、多くの人に支えられて、今の自分があるということを感じさせられた日々でした。

また、この期間に基礎トレーニング（調整力・柔軟性・体幹等）を実践できたことは逆に良い影響でした。練習再開時は、感覚が戻るまで時間がかかりましたが、重量的にはほとんど変わりなく取り組んでいます。自己を見つめ直すことが出来た貴重な時間と考えています。

③今後の目標や活動の仕方

この一年間は自己を見直すことが出来ました。通常のバーベルトレーニングを中心に行っていましたが、基礎基本を大切にすることで、トレーニングに対する考え方や物事に対する姿勢等、自分自身に幅が出来たように感じています。

毎日、高校生とトレーニングを行い、私自身が学ぶことも数多くありますが、基礎基本の大切さ、自己の思い等、多くのことを伝えながら、互いの成長につなげていきます。次年度、三重国体では自己ベストの更新と上位入賞を目指します。





TOKYO2020

オリンピック パラリンピック

2020年7月、本来であれば東京にてオリンピックが開幕していたはずですが、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大を受け約1年の延期を余儀なくされました。それによって県内各地で開催予定だった事前合宿も延期となっております。

大潟村 デンマークボートチーム 事前合宿

事前合宿延期決定と対応

2020年6月23日～7月19日までの期間、デンマークのホストタウンである大潟村の漕艇場を使ってデンマークボートチームが東京オリンピック事前合宿をする予定でした。村では合宿に合わせ、漕艇場のコース改修や選手団の宿泊先の改修整備等数多くの準備を整えていましたが、無情にもオリンピックは来年度に延期することが決定しました。延期が決定した3月24日は、奇しくも聖火リレーの際に使用するトーチが大潟村に巡回してきている最中でした。

延期になった1年後に向けては、日時が記載されているのぼり旗などリニューアルが必要なものもありますが、1年後も今年と変わらずデンマークボートチームを歓迎するムードは衰えてはいません。教育委員会の担当者からは「来年に向けては、依然見通しがもてない部分は多く、準備面ではもどかしさを感じることもある。内閣府が出すガイドラインを参考に準備を整えたい。」とコロナ禍ならではの苦労がある中でも、1年後の合宿に向けた強い意気込みを伺うことができました。



大潟村が誇る国際大会に対応した2,000mコースを含む6,000mの直線が取れる漕艇場。合宿期間中は写真右のブイが10m間隔で2,000m設置された日本唯一の練習コースとなる予定だった。

オリンピックと同じ設備でトレーニング!!

大潟村では、オリンピック及び事前合宿の延期が決まったことを受け、選手のトレーニング用に改修した大潟村ボートセンター内のトレーニング施設を4月～

11月の期間限定で開放しています。毎月2回程度開催される「利用者講習会」に参加した村民限定ですが、ボートのトレーニングに使われるエルゴメーターなど専用の機材の使用などを通してよりボートを理解したり、オリンピック事前合宿を身近に感じたりできる機会となっています。



デンマークと大潟村の架け橋



大潟村教育委員会に在籍するデンマーク人の国際交流員アントン・ボ・キュルブさんです。合宿の受入準備活動にも尽力し、合宿期間中はチームと大潟村との調整役を担うことになっています。アントンさんの存在は村民のデンマークチームへの興味やボート競技への関心を高める意味でも大きな存在となっています。

大潟村でスポーツ体験!

大潟村では、「スポーツコミッションおおがた」という組織を立ち上げ、事前合宿を行うボート競技や水上スキーなどの競技を中心に、合宿・大会の誘致活動のほか、陸上競技などのスポーツ教室を通じた競技を体験することができます。オリンピックが契機となってボート競技をはじめ多くのスポーツが盛んになることを期待しています。



秋田県総合型地域スポーツクラブ

～コロナ禍での活動状況～

せんぼくスポーツクラブ（平成29年10月29日設立・大仙市堀見内字元田茂木7-1）



手の消毒（受付）



検温（受付）



ヨガ教室（又井由貴子講師）



手の消毒（教室終了後）

せんぼくスポーツクラブは、山崎クラブマネジャーと伊藤インストラクターの二人が実務で運営している大仙市の旧仙北町地域を中心に活動しているクラブである。活動拠点が仙北ふれあい文化センターで、クラブの事務室も同センター内に配置されており、行政との連携が十分に図られている。新型コロナウイルス感染拡大により、活動拠点のふれあい文化センターが2月29日から使用禁止になっていたが、5月19日から感染対策をして活動を再開した。毎月第1・第3火曜日に開催しているヨガ教室では、教室開始前に会場の窓を開けて換気し、ドアノブの拭き取り消毒や会場内を噴霧器を使って消毒しているほか、受付では、参加者の手の消毒や非接触式で検温を行っている。またヨガ教室では講師の先生が点呼をとりながら参加者の体調確認を行っている。教室は密を避ける為、参加人数を25名以内に絞って開催しているほか、教室終了後は各自持参のヨガ用マットの表面を消毒してから収納したり、退出時に手を消毒している。そして、再度ドアノブの消毒と会場内を噴霧器を使って消毒して教室を終えている。また、万が一の感染者が出た時の対策として、教室終了ごとに参加者の氏名・連絡先をふれあい文化センターに提出している。このように、感染予防対策をかなりきめ細かく行って活動している。

修武館土崎スポーツクラブ（平成25年3月9日設立・秋田市飯島松根西町11-10）



「健康体操」
（港北地区コミュニティセンター）



センター入口



空手道・組手

修武館土崎スポーツクラブは、総合型クラブとしての活動が8年目のクラブである。そして、藤岡クラブマネジャーが空手道（剛柔流）の道場を自前で建てて、空手道場としては36年という長い年月にわたって地域密着型としてスポーツの普及活動をしているクラブである。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「空手道」（活動場所：修武館土崎道場）、「健康体操」（活動場所：港北地区コミュニティセンター）、「ソフト運動」（活動場所：将軍野地区コミュニティセンター）の3つの活動は4月～7月にかけて一時中断していたが、8月から感染対策を踏まえながら活動を再開した。「健康体操」では、センターの指示に基づいて利用者への入場時のマスク着用、手指の消毒、参加者の連絡先入りのリストの提出が義務付けられている。教室開催時は広い部屋でかつ少人数で、間隔をとっての活動をしている。空手道の教室は毎日（月～金・幼年組17：30～19：00・大人19：00～21：00）、藤岡クラブマネジャーの指導の下、行っている。道場では、入場前に手指の消毒、窓は開けて、3台の壁かけ式扇風機を常時作動させている。幼年組の演武会では、間隔を開けて同方向に向かって演武を行っている。剛柔流は形の動きが重視されており、接触は殆どない。組手の時は、全面顔を覆うマスク型の防具を装着、手にはグローブ着用で直接肌が接触しないようになっている。



空手道・演武（修武館土崎道場）



空手道・演武



空手道・演武



アスリート職業斡旋事業・採用実績(令和元年度)

～秋田県のアスリート競技活動サポート事業で3人のトップアスリートが採用されました～

佐伯 美空 (さえき みく) ■ボート 《2020.4.1入社》



- ◆所属先 / 株式会社加藤建設 (秋田県男鹿市)
- 1997年生まれ 南秋田郡大潟村出身 富山国際大学卒
- ◆主な競技成績
 - 2019/ 全日本大学選手権大会【女子舵手無しペア・2位】
 - 2019/ 全日本選手権大会【軽量級女子舵手無しペア・2位】
 - 2018/ 全日本選手権大会【女子エイト・2位】

三島 廉 (みしま れん) ■カヌースラローム 《2020.4.1入社》



- ◆所属先 / 万六建設株式会社 (秋田県仙北市)
- 1997年生まれ 東京都青梅市出身 日本体育大学卒
- ◆主な競技成績
 - 2019/ ジャパンカップ第2戦【優勝】
 - 2019/ 日本代表最終選考会【2位】
 - 2019/ 世界選手権大会(スペイン)【49位】

三浦 心 (みうら しん) ■競泳・バタフライ 《2020.4.1入社》



- ◆所属先 / 株式会社エイジェック 秋田雇用開発センター (秋田県秋田市)
- 1998年生まれ 秋田県秋田市出身 中京大学卒
- ◆主な競技成績
 - 2019/ 茨城国体【成年競泳 100 mバタフライ・6位】
 - 2019/ 日本学生選手権水泳競技大会【バタフライ 100 m・5位】
 - 2019/ ジャパンオープン 2019【バタフライ 100 m・8位、50 m・5位】

コロナ禍のトップアスリート&新卒者就活支援概況

マッチング済アスリート延べ14名 / 新卒アスリートの就活

◇マッチング済トップアスリート (聞き取り調査ほか)

ほとんどの選手が、コロナの影響で試合が中止、国境・県境を越える移動制限などで遠征も出来ず、また練習環境もままならず目標を失い、モチベーションの維持が大変だという声が多かったです。中には東京オリンピック延期でチャンスが出てきた選手もおりwithコロナ奮起中の選手、既にパリオリンピックにシフトし目標に向かっている選手などもおり、選手間においてもコロナ禍模様は様々です。

◇新卒者就活支援

例年実施の合同就職面接会、Aターンフェアが軒並み中止、就活者の実態把握も難しく、Web面接に切り替えの企業も出てきているが、中小企業が多い秋田では採用人数が少なく、できれば直接本人面接で決めたいのが本音です。また例年就活スタートが遅めのアスリート学生は意外にもコロナ禍自粛期間をチャンスとして活かせてないのが実情です。

◎お問い合わせは……

— 公益財団法人 秋田県体育協会 —

秋田トップアスリート無料職業紹介所 (厚生労働大臣許可番号 05-ム-300018)

担当者 就職推進アドバイザー 佐々木 功

所在地 〒010-0974 秋田市八橋運動公園1番5号 スポーツ科学センター2F

電話 018-864-8094 / FAX 018-864-5752

E-mail akitaiky0711@yahoo.co.jp

HP <http://www.akitaiky.or.jp/job/>

秋田アスリート就職支援

検索



県内スポーツの主なできごと

3月

- 26日 県体協は、2019年度県スポーツ賞の受賞者60個人16団体と人見スポーツ賞、畠沢国体賞、辻ジュニアスポーツ大賞を発表

4月

- 1日 県高等学校体育連盟が高校総体地区大会の中止を発表
10日 大仙市で開催予定だった全国500歳野球大会が中止
26日 全国高等学校体育連盟は、全国高校総合体育大会（インターハイ）について第1回大会開催（1963年）から初めての中止を発表
27日 東北高校体育連盟は、東北高校選手権の32競技の中止を発表
28日 日本中学校体育連盟は、全国中学校体育大会の中止と東北中学校体育大会の中止を発表

5月

- 1日 県中学校体育連盟などは、第86回全県少年野球大会の中止を発表
1日 県中学校体育連盟は、県中学校総合体育大会の中止を発表
7日 日本スポーツ協会は、第28回日・韓・中ジュニア交流競技会秋田大会の中止を発表
8日 県高校体育連盟は、第66回全県高校総合体育大会の中止を発表
13日 日本バドミントン協会は、8月に秋田市で開催予定だった国際大会「ヨネックス秋田マスターズ」の中止を発表
25日 県は、第71回県民体育大会の夏季36競技の中止を発表
26日 山形県準備委員会は、第47回東北総合体育大会の夏季36競技の中止を発表
29日 日本スポーツ協会は、日本マスターズの中止を発表

6月

- 4日 バスケットボール女子のWリーグに(株)プレステージ・インターナショナルの女子バスケットボールチーム「アランマーレ」(秋田市)が新規参入

7月

- 4日 全県高校総体の代替大会「県高校体育大会」が開幕
15日 第18期中学生強化選手として13競技14種目の55人を指定

8月

- 7日 日本バスケットボール協会が2020年度の代表候補選手を発表し、3人制男子代表に秋田ノーザンハピネットの保岡龍斗選手が選出され、長谷川誠氏がアソシエイトヘッドコーチに入った
23日 陸上競技のセイコーゴールデングランプリの女子400m障害で関本萌香が優勝し、また、女子800mでは広田有紀（秋田大出身）が3位

9月

- 1日 県体協は、指導者を対象にした「蒔苗スポーツ指導者賞」を設立
13日 日本学生陸上競技対校選手権大会女子ハンマー投げで、小舘充華（花輪高出身）が連覇
16日 県バスケットボール協会は、第49回県ミニバスケットボール大会兼第43回県スポーツ少年団大会について初めての中止を発表
19日 ゴルフのドライバーの飛距離を競うドライビングコンテストで、長谷川円香（秋田市出身）が初の高校生プロとなった
27日 高校生を対象にしたフェンシングのオープン大会「High School Japan Cup 2020」女子エペで齋藤華南（秋田商3年）が優勝

10月

- 2日 日本陸上競技選手権大会女子ハンマー投げで小舘充華（花輪高出身）が3位



評議員の一斉改選がありました

1 評議員の改選

令和2年6月25日の定時評議員会で、評議員選定委員会から評議員84名（再任67名・新任17名）の選任について報告がありました。任期は、令和6年の定時評議員会終結の時までとなります。

評議員会は、公益財団法人の最高議決機関として、理事・監事の選任・解任、定款の変更、事業計画・予算、決算の承認等の重要事項を審議、決議します。

毎年度、6月（定時）と3月（臨時）の2回開催され、評議員の代理議決権は認められていません。会議への出席について、あらかじめ日程調整されるよう御協力をお願いします。

北林 強（陸上競技協会）	秋山 渉（ラグビーフットボール協会）	千葉 雅樹（特別支援学校体育連盟）
中村 晴二（水泳連盟）	齊藤喜代志（山岳・スポーツクライミング連盟）	古川 龍（秋田市体育協会）
尾形 隆（サッカー協会）	石井 実（銃剣道連盟）	青山 正夫（能代市体育協会）
畠山 芳彦（スキー連盟）	布目 浩嗣（ボウリング連盟）	佐々木壽一（横手市体育協会）
萩庭 純（テニス協会）	保坂 正（バイアスロン連合）	青柳 正隆（大館市体育協会）
加藤 正己（ボート協会）	石塚 司（空手道連盟）	大森 勝美（男鹿市体育協会）
佐藤正一郎（ホッケー協会）	山信田勢津子（なぎなた連盟）	高橋 克己（湯沢市体育協会）
山平雄二郎（ボクシング連盟）	藤島 幸生（アーチェリー協会）	下川原常雄（鹿角市体育協会）
館岡 清秋（バレーボール協会）	石綿 丈太（アイスホッケー連盟）	工藤 兼雄（由利本荘市体育協会）
相澤 康一（体操協会）	渡邊 昇（ゲートボール協会）	淡路 芳和（潟上市体育協会）
保坂 明（バスケットボール協会）	和田 忍（カヌー協会）	伊藤 勝（大仙市体育協会）
岩谷 政良（スケート連盟）	齊藤 實（軟式野球連盟）	成田 昭夫（北秋田市体育協会）
菅原弥三郎（レスリング協会）	石山 雅明（少林寺拳法連盟）	佐藤 正次（にかほ市体育協会）
鎌田利左衛門（セーリング連盟）	國枝あつ子（武術太極拳連盟）	佐々木 健（仙北市体育協会）
吉川 勇（ウエイトリフティング協会）	伊藤 和弘（パワーリフティング協会）	浅利 和彦（小坂町体育協会）
齊藤 大志（ハンドボール協会）	北嶋 貞好（合気道連盟）	清水 博司（上小阿仁村体育協会）
伊東 金一（自転車競技連盟）	櫻庭 星治（綱引連盟）	加藤 十（藤里町体育協会）
萬 正一（ソフトテニス連盟）	千田 典夫（バウンドテニス協会）	加藤 一志（三種町体育協会）
野尻 聡（卓球協会）	湊屋 隆夫（ゴルフ連盟）	須藤 徳雄（八峰町体育協会）
伊藤 淳（相撲連盟）	高橋 建（グラウンド・ゴルフ協会）	館岡 正雄（五城目町体育協会）
三浦 英司（馬術連盟）	磯崎 洋一（トライアスロン協会）	加賀谷貴男（八郎潟町体育協会）
遠藤 純男（柔道連盟）	今 芳昭（ダンススポーツ連盟）	幡宮 正光（井川町体育協会）
後藤 健（ソフトボール協会）	千田 幸咲（ポールルームダンス連盟）	佐藤 正之（大潟村体育協会）
折原 順悦（フェンシング協会）	山田 敦史（オリエンテーリング協会）	中村 立夫（美郷町体育協会）
谷村 武義（バドミントン協会）	伊藤 隆喜（ローラースポーツ連盟）	湊 幸夫（羽後町体育協会）
小松原茂雄（弓道連盟）	高橋 真（アームレスリング連盟）	佐々木俊朗（東成瀬村体育協会）
柏谷 勝美（クレー射撃協会）	篠原 育子（エアロビック連盟）	
伊藤 昭（ライフル射撃協会）	黒澤 光弘（高等学校体育連盟）	
伊藤 忠善（剣道連盟）	長沼 優（中学校体育連盟）	

※以上敬称略

2 理事の改選

令和2年6月25日の定時評議員会において、佐藤司理事（秋田市体育協会）の辞任に伴う後任理事として、河村勝氏が選任されました。任期は、前任者の残任期間（令和3年の定時評議員会まで）です。



バスケットボール競技普及等助成事業

令和2年6月、秋田ノーザンハピネッツ株式会社から、本県のバスケットボール競技の普及・振興及び選手強化に活用してほしいと、チームのファンクラブ「クラブハピネッツ」の年会費の一部より、100万円の寄付がありました。(H26年度から7年連続、寄付総額700万円)

県体協では、「バスケットボール競技普及等助成事業」として、デジタイマやショットクロック、ボールなど用具購入等に活用させていただいております。

秋田ノーザンハピネッツ株式会社様、クラブハピネッツ会員の皆様、御寄付ありがとうございました。チームの益々の躍進と発展を祈念しております。

(令和2年度助成先 19団体)

八竜MBC男子ミニバスケットボールスポーツ少年団
 東湖ミニバスケットボールスポーツ少年団
 HIROOMOTE女子ミニバスケットボールスポーツ少年団
 勝平女子ミニバスケットボールスポーツ少年団

秋大附属小女子ミニバスケットボールスポーツ少年団
 秋田東小女子ミニバスケットボールスポーツ少年団
 土崎南男子ミニバスケットボールスポーツ少年団
 上北手ミニバスケットボールスポーツ少年団
 築山男子バスケットボールスポーツ少年団



旭北女子ミニバスケットボールスポーツ少年団
 尾崎女子ミニバスケットボールスポーツ少年団
 石沢スポーツ少年団
 刈和野ハリキリシューターズスポーツ少年団
 HJジャズバスケットボールスポーツ少年団

清水サンダーウェーブミニバスケットボールスポーツ少年団
 大曲男子ミニバスケットボールスポーツ少年団
 横手バスケットボール栄スポーツ少年団
 山内スポーツ少年団(女子ミニバスケットボール山内ピジョンズ)
 十文字ミニバスケットボールスポーツ少年団

東京オリンピック・パラリンピック候補者支援募金

昨年度は、東京オリンピック・パラリンピック候補者を支援するため、県体主催「チャリティゴルフコンペ」を開催しました。多くの皆様から大会趣旨に御賛同いただき、総額294千円の寄付金を頂戴しました。御支援くださいました皆様に深く感謝申し上げます。

○支援募金実績(令和元年度)

294,000円

○支援募金交付実績(令和元年度)

247,993円

2018年アジア大会カヌー女子スプリント競技において2種目で銅メダルを獲得、2018年度からはナショナルチーム選手として東京オリンピック代表を目指している小野祐佳選手から申請があり、2019年1月～3月の海外強化合宿(ハワイ州オアフ島)への参加に係る交通費等として、247,993円を交付しました。



令和2年度(公財)秋田県体育協会 賛助会員

～御協力ありがとうございます～

県体育協会の賛助会員として、事業推進に御協力をいただいております皆様の御芳名を掲載し、謹んで謝意を表しますとともに、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。

【法人会員】

秋田いすゞ自動車株式会社	株式会社アテック	太平山観光開発株式会社
秋田運送株式会社	株式会社エフエム秋田	タプロス株式会社
秋田空港ターミナルビル株式会社	株式会社光風舎	千代田興業株式会社
秋田県信用保証協会	株式会社サノ・ファーマシー	辻不動産株式会社
秋田県バドミントン協会	株式会社大同観光	東亜道路工業株式会社秋田営業所
秋田県武術太極拳連盟	株式会社東北ビルカンリ・システムズ	東北環境管理株式会社
秋田魁会	株式会社友愛ビルサービス	中田建設株式会社
秋田白玉工業株式会社	株式会社光輪技研	ニプロ株式会社大館工場
秋田信用金庫	株式会社本間	日本精機株式会社
秋田ステーションビル株式会社	株式会社丸亀高久建設	日本電機興業株式会社
秋田テレビ株式会社	株式会社ミチノク	ネットトヨタ秋田株式会社
秋田ホーチキ株式会社	株式会社ユアテック秋田支社	船川臨港運送株式会社
一般社団法人秋田県建設業協会	株式会社ルーラル大湯	文化シャッター秋田販売株式会社
一般社団法人秋田県サッカー協会	公益社団法人秋田県バス協会	堀江建材株式会社
一般社団法人秋田県歯科医師会	コクヨ東北販売株式会社	名鉄観光サービス株式会社秋田支店
一般社団法人秋田県薬剤師会	コマツ秋田株式会社	有限会社アリエル
伊藤建設工業株式会社	猿田興業株式会社	有限会社佐々木製作所
医療法人回生会秋田回生会病院	社会医療法人青嵐会	有限会社佐藤養助商店
医療法人久幸会	社会医療法人明和会	有限会社雄駿
羽後電設工業株式会社	白神森林組合	由利工業株式会社
奥羽電気設備株式会社	全国農業協同組合連合会秋田県本部	ヨコウン株式会社
奥山ボーリング株式会社	創和技術株式会社	臨海砕石株式会社
株式会社秋田温泉さとみ	大堂電機自動車工業株式会社	
株式会社秋田ケーブルテレビ	ガイドードリンコ株式会社	

【個人会員】

秋元昌貴	佐々木岩男	半田祐毅
安藤進	佐藤卯兵衛	福原幸成
伊藤彊	佐藤重満	茂木秀悦
上野満	佐藤有一	米塚善之助
尾形隆	田原隆雄	若狭良博
加藤時子	中村六郎	渡部聡
金子良雄	奈良正人	渡邊剛
熊谷金次郎	西村悦子	渡辺正典

※五十音順(敬称略)

9月11日受付まで



秋田県体育協会への御寄付のお願い

本県スポーツの振興と競技力の向上を図り、さまざまな公益目的事業を展開する経費の一部に充てるため、県民及び県内外の企業、団体へ御寄付をお願いしております。

公益財団法人への寄付は、教育又は科学の振興など公益の増進に著しく寄与できるものとして、所得税法、法人税法による寄付金特別控除、損金算入（法人の場合）などの特例対象となります。

スポーツ立県を支え、実現していくために、多くの皆様の御理解、御協力をお願いします。

寄付申込みをいただいた法人・団体、個人を御紹介します。（敬称は略させていただきます。）

【法人・団体】

秋田いすゞ自動車株式会社	株式会社秋田国際カード	タプロス株式会社
秋田共立株式会社	株式会社秋田魁新報印刷	辻兵商事株式会社
秋田県剣道連盟	株式会社秋田ジェーシービーカード	東京美装興業株式会社鹿角事業所
秋田県厚生農業協同組合連合会	株式会社秋田椿台ゴルフクラブ	中田建設株式会社
秋田県自動車販売店協会	株式会社秋田デンカ	長谷川体育施設株式会社秋田営業所
秋田県信用組合	株式会社秋田放送	花岡土建株式会社
秋田車体株式会社	株式会社アテック	堀江建材株式会社
秋田信用金庫	株式会社寒風	むつみ建設株式会社
秋田ゼロックス株式会社	株式会社北日本ベストサポート	ユーアイ警備保障株式会社
秋田瀝青建設株式会社	株式会社サキガケ・アド・ブレーション	有限会社金子建設工業
医療法人敬徳会藤原記念病院	株式会社さきがけプラス A	有限会社三協商事
医療法人社団柔心会	株式会社サノ・ホールディングス	有限会社東立
医療法人正和会	株式会社菅与組	有限会社松村鉄工
医療法人久幸会	株式会社セコー	有限会社丸ノ内サービス
医療法人祐愛会加藤病院	株式会社テーエムシー	有限会社村田弘建築設計事務所
株式会社アイネックス	コマツ秋田株式会社	ユナイテッド計画株式会社
株式会社秋田銀行	全国共済農業協同組合連合会秋田県支部	ロイヤルモーター株式会社
株式会社秋田グランドリース	DOWA ホールディングス株式会社秋田事業所	鹿前運輸株式会社

【個人】

杉江 順一
山内 輝誠

殿村 碩太郎

松本 奈緒

※五十音順（敬称略）

9月11日受付まで



県体協事務局だより

会議録(抄)

- 2月13日 第1回日・韓・中ジュニア交流競技会関係団体連絡会議
- 3月9日 第3回審査委員会(書面決議)
 - 秋田県スポーツ賞2次審査
 - 人見スポーツ賞、畠沢国体賞、辻ジュニアスポーツ大賞の候補案について
 - 秋田県スポーツ賞授与と基準の見直し(改定)について
- 3月12日 第3回定例理事会(書面決議)
 - 令和2年度事業計画及び収支予算(案)について
 - 財産運用管理規程の制定(案)について
 - 「事務局組織規程」の一部改正(案)について
 - 相談役の推挙
 - 臨時評議員会の招集について
- 第4回強化委員会(書面決議)
 - 第75回国民体育大会冬季大会の結果について
 - チームAKITA1,000点プランの成果について
 - 社会人スポーツ強化について
 - ターゲット競技調査・分析について
 - ヒアリングについて
 - 強化委員会活動計画について
- 3月23日 第2回選考委員会(書面決議)
 - 3賞選考委員会(書面決議)
- 3月26日 臨時評議員会(書面決議)
 - 令和2年度事業計画及び収支予算(案)について
 - 平成30年度決算報告書過年度修正(案)について
- 3月27日 第2回スポーツ医・科学委員会(書面決議)
 - 令和2年度活動計画及び運営計画について
- 4月20日 加盟団体事務局長会議(書面決議)
 - 令和2年度事業計画、主要行事予定について
 - 加盟団体の提出書類等について
 - スポーツ安全保険について

- アスリート就職支援について
- スポーツ指導者研修会、コーチ1養成講習会について
- 令和2年度県民体育大会について
- チームAKITA1,000点プランについて
- 中学生強化選手育成、高校強化拠点校制度について
- 6月5日 第1回定例理事会(書面決議)
 - 令和元年度事業報告及び決算報告書(案)について
 - 顧問の推挙について
 - 定時評議員会の招集について
 - 特別寄附金の受領について
- 6月23日 定時評議員会(書面決議)
 - 令和元年度事業報告及び決算報告(案)について
 - 理事の選任について
 - 役員等推薦委員会の委員の選任について
- 7月10日 第1回審査委員会
 - 「蒔苗スポーツ指導者賞」の新設について
 - 「人見スポーツ賞」「畠沢国体賞」「辻ジュニアスポーツ大賞」「人見スポーツ傷害」基金管理運営規程の改正について
 - 秋田県スポーツ賞表彰内規の改正について
 - 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者等表彰受賞候補者の推薦について
 - 新規加盟申請について
- 9月1日 第2回定例理事会
 - 「蒔苗スポーツ指導者賞」の新設について
 - 「人見スポーツ賞」「畠沢国体賞」「辻ジュニアスポーツ大賞」「人見スポーツ傷害」基金管理運営規程の改正(案)について
 - 「秋田県スポーツ賞」表彰内規の改正(案)について
 - 競技団体の加盟について
 - 役員等推薦委員会の委員の選任(案)について
 - 評議員選定委員会の委員の選任(案)について

令和2年度(公財)秋田県体育協会職員紹介

■常勤理事

専務理事 齊藤 謙

■事務局

事務局長 飯坂 尚登

■総務課

TEL 018-864-8090

課長 山内 輝誠

課長代理 森田 佳子

職員 大庭美保子

・スポーツ安全協会秋田県支部

TEL 018-883-0360

職員 佐藤 隆子

■スポーツ少年団室

TEL 018-866-3916

(兼)室長 飯坂 尚登

職員 富樫 恵子

職員 二階堂直子

■スポーツ推進課

TEL 018-864-8094

課長 久米 克弥

職員 中川トシ子

・アスリート就職推進アドバイザー

佐々木 功

・クラブアドバイザー

清沢 広行

■競技力向上対策課

TEL 018-864-8091

課長 齋藤 伸行

強化専門員 杉淵 茂利

強化専門員 安田 竜

強化専門員 山崎 光

強化専門員 小野 祐佳

職員 富田由紀子

■ジュニア育成アドバイザー

大貫 葉子

石崎 庸介

■テクニカルアドバイザー

安保 建吾 (陸上競技)

三浦 遼 (水泳)

佐藤 太一 (スキー)

小山内 鴻佑 (スキー)

三浦 隆司 (ボクシング)

小野 秀二 (バスケットボール)

成田 竜也 (レスリング)

腰山 浩汰 (ウエイトリフティング)

加納 明帆 (ハンドボール)

吉田 花道 (フェンシング)

花岡 伸明 (ラグビーフットボール)

訃報

永年にわたり、本県スポーツの発展、振興に寄与されましたご功績を称え、謹んでご冥福をお祈りいたします。

鈴木 斌次郎 氏 元 公益財団法人秋田県体育協会副会長 令和2年6月9日 御逝去

編集後記

新型コロナウイルス感染症の影響により多くの大会・イベント等が延期や中止に追い込まれ、スポーツ活動にも重く制限がのしかかっています。今は、スポーツに関する様々なドラマを多くお届けできずしておりますが、今後必ずや心打たれるシーンやドラマが生まれるはずですので、出会うことに期待しています。最後に、本誌の発行にあたり、御多用の折、取材・原稿執筆、写真の提供など御協力くださいました皆様、ありがとうございました。



輝きを 汗に 瞳に このまちに
能代山本スポーツリゾートセンター **アリナス**

スポーツ 合宿 研修 … に

ア リ ナ ム 宿 泊 ラ 室
ト レ ニ ン グ ル ー ム ン シ ャ ン
温 水 プ ー ル 室 温 ス ト ラ 浴
研 修 ミ ー テ ィ ン グ ル ー ム (サウナ有)



〒016-0014 秋田県能代市落合字下台2番地1
JR能代駅から車で10分
TEL 0185(54)9200 FAX 0185(54)2322

駄菓子・ワジ・縁日グッズ
お菓子の袋詰

問屋

しもむら

駄菓子のしもむら 検索



☎018-832-6766

資源を活かして地域社会に貢献

砕石・生コン製造販売業

堀江建材株式会社

代表取締役 鈴木 洸士

秋田県大館市中道三丁目1番50号
TEL 0186-49-0280
FAX 0186-43-0002

株式会社松 田

地域の発展とともに
株式会社湯沢生コン
松田グループ 株式会社丸栄建設
株式会社出羽運輸

株式会社エィコウ物産

本 社 / 湯沢市字鶴館 39-4 TEL.0183-73-0188

事業内容

会社財務・決算・記帳代行・税務相談・経営助言・
相続・贈与・事業承継対策・医療法人経営指導税務対策



税理士法人
秋田税経プランニング

税理士 高 橋 真 一
税理士 菅 谷 浩

本 店 / 秋田市南通亀の町4番9号 Tel.018-833-4022
菅谷会計 / 秋田市土崎港東二丁目16番24号 Tel.018-845-5648

インスタマガジン公開中!!

これまでも
これからも
秋田米

#秋田農家ごはん

スペシャルサイトはこちら



美人を育む秋田米
あきたこまち

JAグループ秋田・JA全農あきた



想
像
か
ら
創
造
へ

あらゆるニーズにお応えする

松原印刷社

〒010-0951 秋田市山王七丁目5-29
TEL 018-862-8760
FAX 018-863-0005

http://www.matsubarainsatsu.co.jp





仲間と一緒に
楽しく

小さな掛金、大きな補償

スポーツ安全保険[®]


4名以上の団体・グループで
ご加入ください

文化活動、レクリエーション、ボランティア、地域活動などでもご加入できます



傷害保険



賠償責任保険



突然死葬祭費用保険

対象となる事故

団体・グループでの活動中の事故／往復中の事故

保険期間

2020年4月1日午前0時から2021年3月31日午後12時まで（申込受付は2020年3月から）

掛金

掛金（1人年額800円～1,850円）は、活動内容・年齢によってご選択いただく加入区分ごとに異なります
ただし、危険度の高いスポーツを補償する区分は11,000円

補償内容

傷害補償は、死亡2,000万円、後遺障害3,000万円を最高に、活動内容・年齢によって異なります
詳しくは、ホームページなどをご覧ください



公益財団法人 **スポーツ安全協会 秋田県支部**
（公財）秋田県体育協会内

〒010-0974 秋田市八橋運動公園1-5
秋田県スポーツ科学センター内

TEL

018-883-0360

電話受付時間 午前8時30分～午後5時（土、日、祝日を除く。）



保険の詳しい内容、資料の請求は、
ホームページをご覧ください。

*インターネットからも加入受付をおこなっております。

スポーツ安全保険

検索

〈引受幹事保険会社〉

東京海上日動火災保険株式会社
担当課：公務第2部 文教公務室
TEL 03-3515-4346（平日9:00～17:00）

〈共同引受保険会社（2020年4月予定）〉

あいおいニッセイ同和 共栄火災
損保ジャパン日本興亜 大同火災 東京海上日動
日新火災 三井住友海上 AIG損保

この広告はスポーツ安全保険（スポーツ安全保険特約書に基づく傷害保険（スポーツ安全協会傷害保険特約・スポーツ安全協会傷害保険特約（学校管理下外担保）・突然死葬祭費用担保特約付帯普通傷害保険）、賠償責任保険（スポーツ安全協会賠償責任保険特約等付帯施設賠償責任保険及びスポーツ安全協会傷害保険特約（学校管理下外担保）付帯普通傷害保険賠償責任担保条項））の概要についてご紹介したものです。ご加入の際には、必ず「スポーツ安全保険のあらまし」および「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は保険約款および特約書によりますが、ご不明の点がございましたら（公財）スポーツ安全協会または東京海上日動火災保険（株）までお問い合わせください。

2019年12月作成 19-T05158